

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202004 建築ものづくり広場	<p>自らものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。</p> <p>ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。</p> <p>建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身に付け、機材を用いて製作を行うプロセスについて体験的に理解します。</p>	<p>3人の教員が、木工、ダンボール制作、スケッチの3クラスについて、少人数での教育を行った。学生は、各クラスを4回づつ、受講する方法とした。4回のうち2回を対面とし、2回を遠隔であった。</p> <p>ものづくりの対面での指導時間が短くなったことから、作品のクオリティとしては上がりにくいと感じた。学生は、楽しんで制作に取り組んでくれたことから、授業方法の工夫を行ってゆきたい。</p>	<p>授業評価4.3(4.4、4.1、4.2、4.3、4.2) 回収率84.3%</p> <p>担当した木工について、授業での制作作業指導にかける時間が十分とは言えなかったが、自由時間で学生は熱心に取り組んだ。統一した技術指導が不十分な部分については、実習棟での負担が増す結果となった。</p>
A202007 環境デザインⅡ	<p>省エネに配慮した住宅の計画方法について理解できる。</p> <p>地域の気候に配慮した建築計画の工夫について理解できる。</p> <p>自然エネルギー利用の基礎について理解できる。</p> <p>本講義は、日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得、環境問題の理解、サステナブルデザインに関する価値観の醸成を目的とします。</p>	<p>初回を対面(交互)で行い、その後は遠隔でのオンデマンド(パワーポイントを用いた授業動画)で実施した。</p> <p>受講ノートの提出をもとめ、コメントを返すなどのコミュニケーションを行った。</p>	<p>授業評価4.2(4.3、4.0、4.1、4.2、4.2) 回収率53.7% 科目GPA(F以外)</p> <p>オンデマンド(動画)での授業もわかりやすかったなどの乾燥もあった。</p> <p>オンデマンドに慣れない学生など、苦手意識のある学生もいたことが推察される。</p> <p>対面での授業を一定以上組み込むなどの工夫も必要であったと思われる。</p>
A202025 木造住宅設計Ⅱ	<p>木造住宅の設計技法の習得を目指します。</p> <p>構法的な基礎知識を得るとともに、図面表現方法を習得し、模型制作を通して立体的な理解を深めます。</p> <p>伝統木造住宅の意匠や地域素材の活用方法、左官など伝統的な技術についてもレクチャーや調べ学習を行います。</p> <p>木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。</p>	<p>木組みモデルの制作を実習室において行った。</p> <p>遠隔・対面を交互としたため、対面での指導の時間が限られ、結果的に自習で制作に取り組む時間が増えた。</p> <p>学生の取り組みの意識は高く、積極的に取り組んでいる様子が伺えた。</p>	<p>授業評価4.7(4.9、4.6、4.7、4.7、4.9) 回収率63.6%</p> <p>木工制作の課題であり、直接の指導時間が限定的であったことから、技能的なところでの指導は限られたものの、自由時間を使用して学生らは熱心に制作に取り組んだ。加えて調べ学習などにも取り組んだ。</p>
A202030 卒業研究Ⅱ	<p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。</p> <p>卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p> <p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>対面で指導を行い、一部遠隔での指導を行った。学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。</p>	<p>遠隔での指導も利用しながら、学生個別の状況に対応した指導を実施することができた。</p> <p>テーマや方向性などを個別、遠隔での対応に即したするものなどの工夫を行いながら実施した。</p>
GA20204 建築学特別研究B	<p>建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p> <p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>対面で指導を行い、一部遠隔での指導を行った。学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。</p>	<p>遠隔での指導も利用しながら、学生個別の状況に対応した指導を実施することができた。</p> <p>テーマや方向性などを個別、遠隔での対応に即したするものなどの工夫を行いながら実施した。</p>
GA20211 建築環境論	<p>省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。</p> <p>環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができる。</p>	<p>対面・遠隔の授業を組み合わせ、各回、学生が発表・ディスカッションを行いながら、地域の気候風土に対応した建築を提案するプログラムを実施した。対面・遠隔の組み合わせは妥当であったと思われ、質の高い提案につなげることができた。</p>	<p>調べ学習、レクチャー、発表を組み合わせ、繰り返しながら授業進行をした。遠隔、対面、それぞれのメリットを合わせた授業構成とすることができた。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202024 日本建築実習	<p>達成目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構法、スケール、装飾、使われ方などについて、観察や解説を通じて今後の建築を考えていく具体的で多様な視点を獲得することを目標とします。</p>	<p>学外に出て、実際の建築を見て学ぶという授業であったが、コロナ感染防止のため、実習には出られず、学内での学びとなってしまったため、学生の満足度は低くなってしまった。コロナ完成の心配がなくなったら、学外での建築見学を行いたい。</p>	<p>授業評価3.49(3.7、3.3、3.3、3.7、3.3) 回収率23.1% 科目GPA- 学外に出て、実際の建築を見て学ぶという授業であったが、コロナ感染防止のため、実習には出られず、学内での学びとなってしまったため、学生の満足度は低くなってしまった。コロナ完成の心配がなくなったら、学外での建築見学を行いたい。</p>
A202028 卒業研究Ⅱ	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価- 回収率0% 科目GPA- 授業評価の回答はなかったが、学生は受講ノートもしっかりと書き込みしている。学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにしている。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
GA20214 都市設計論	<p>達成目標 現代の都市を観察し問題点を発見でき、その解決案を提案できる。</p>	<p>個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価- 回収率0% 科目GPA- 特に授業の運営には問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>
GA20202 建築学特別研究B	<p>達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>個々の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価- 回収率0% 科目GPA- 特に授業の運営には問題はないようであった。今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
建築構造のしくみ	建築物の構造システム・材料種別を理解できる。 各種構造物の構造計画の手順を理解し、構造設計ができる。	対面式の講義の予定であったが、履修者を2クラスに分けて対面授業と遠隔授業を交互に行うハイブリット型の授業を実施した。動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。遠隔授業回はスライド動画をもちいて講義を中心に実施し、対面授業回は問題の解説を中心に行った。学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業評価(4.3, 4.1, 4.2, 4.4, 4.3) 回収率(50.6%) 科目GPA2.95 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。
卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 遠隔授業の影響もあり、研究の進行および達成度にはばつきが見られた。遠隔授業での研究指導方法を再考する必要がある。
力学入門	基本的な静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など)の反力と応力(軸力、せん断力、モーメント)を算定することができる。	対面式の講義の予定であったが、履修者を2クラスに分けて対面授業と遠隔授業を交互に行うハイブリット型の授業を実施した。動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。遠隔授業回はスライド動画をもちいて講義を中心に実施し、対面授業回は問題の解説を中心に行った。学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業評価 4.29(4.4, 4.2, 4.2, 4.5, 4.4) 回収率(82.3%) 科目GPA3.2 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。
構造安全論	1. 構造物の安全性に大きな影響を及ぼす地震、台風などが建物に及ぼす影響について理解し、説明ができること。 2. 構造設計に対して適用できること。	履修者がいないため、開講せず。	0
構造計画学	構造計画、構造設計の手順を理解できる。実務で実施される設計行為について一連の流れを理解できる。 計算法の習得と地震外力の考え方を習得し、具体的な計算ができる。	対面式の講義の予定であったが、履修者を2クラスに分けて対面授業と遠隔授業を交互に行うハイブリット型の授業を実施した。動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。遠隔授業回はスライド動画をもちいて講義を中心に実施し、対面授業回は問題の解説を中心に行った。学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業評価 4.29(4.7, 3.8, 4.0, 4.5, 4.0) 回収率(22.2%) 科目GPA2.7 授業の前半は理論的な講義を中心に実施したが、後半で実施した図面作成において、学生によっては図面作成が上手くいかない者もいた。本講義は旧カリ科目のため、次年度以降はないが、この結果を他の授業に反映させていく必要がある。
建築学特別研究B	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0
建築学特別研究D	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	0

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202033卒業研究Ⅱ	<p>達成目標</p> <p>①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。</p> <p>③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくことになります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方にあった授業内容を組み立てた。対面授業では、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0)回収率100% 科目GPA3.67</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A202018建築設計製図Ⅳ【旧カリ】	<p>達成目標</p> <p>①立地環境や建物の構造を理解して、設計図面(配置図、平面図、立面図、断面図)作成できる。建築のイメージを表現できる手法と伝えられることを習得できる。</p> <p>②中規模施設を設計する構想力をつけることを目的とします。</p> <p>③建築物の外部(エクステリア)・内部(インテリア)の生活シーンをイメージし、さらに周辺環境とのかかわりを含めて検討するなどの空間設計力、構想した建築空間をより分かりやすく相手に伝えるための図面表現力も養います。</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方にあった授業内容を組み立てた。対面授業では、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。遠隔授業では対面授業までの間に、決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価3.8(4.0、3.8、3.5、4.0、3.5)回収率18.2% 科目GPA3.48</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A202016建築意匠学【旧カリ】	<p>達成目標</p> <p>①建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること</p> <p>②設計製図でのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方にあった授業内容を組み立てた。対面授業は、PPTを中心に事例作品により建築計画及びデザインの仕組みを解説できた。</p>	<p>授業評価4.1(4.2、3.9、4.1、4.3、4.2)回収率82.5% 科目GPA3.48</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>
A202001インテリアエレメント	<p>達成目標</p> <p>①インテリアを計画するために必要となる基本事項について理解ができ、かつ、それらの知識を用いて、実際のインテリア空間を評価できる。</p> <p>②インテリアを計画するために必要となる基本的な事項について学習するとともに、人の生活におけるインテリア空間の重要性や計画の方法について学びます。</p>	<p>隔週での対面授業と遠隔授業での講義であったが、この両方のやり方にあった授業内容を組み立てた。対面授業は、PPTを中心に事例作品により、建築計画及びデザインの仕組みを解説できた。</p>	<p>授業評価4.4(4.4、4.2、4.4、4.3、4.5)回収率34.5% 科目GPA3.48</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
特別支援教育	<p>達成目標 通常の学級に在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により、特別の支援の必要な幼児児童生徒が各学級においてうまく学習活動に参加できるとともに生きる力を身につけられるよう支援していくための知識、組織としての対応の大切さを学ぶ。 学習効果 さまざまな障害があることに気づく、組織を有効に使うことを学ぶ。</p>	<p>テキストと併用する講義ノートを作成し、できる限り最新の情報提供するように心がけた。ただ、「百聞は一見にしかず」ではないが、テキストやYouTube動画で障害者の実態を理解するだけでなく実際の授業等の見学があればより効果的な理解に繋がると感じている。現在の講義軽視では限界があり、単なるノウハウの知識で終わることが悲しい。実際に身内に障害を抱えた学生は、より身近に感じることができると思う。特別支援教育の世界ではきょうだい支援や保護者支援も本人支援に次いで必要なものである。この点に十分に触れることができなかったことは悔やまれる。</p>	<p>カリキュラム上、特別支援学校の見学や実際の教材開発などの講義は難しいが、総合経営、スマートデザイン、建築の3つの学科がある本校ならではのカリキュラムづくりができれば(学学協同)より実践的な特別支援教育の提示ができると考える。次年度以降、特別支援学校との連携も含めて検討していきたい。今年度はアイマスクによる目隠し歩行体験等も取り入れてみたが、今後もこうした体験的な内容を盛り込んでいきたいと思う。車椅子体験ができないのはいたい。どこかで手に入るといいのであるが……。</p>
卒業研究Ⅱ	<p>目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>後期はメールや手紙でコンタクトを試みたが1名を除き、連絡が取れなくなった。電話は最終手段だと思うが、うまく活用できなかった。信頼されなかったかと思うと自分自身が悲しい。</p>	<p>次年度は、卒業研究Ⅰの中でなんとしても信頼関係を築き、最後まで作り上げる喜びを味わわせられるように心がけたいと思う。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202011 建築施工	<p>目標は①建築物の構築に関わる人について知る。②各種の工法の特徴を理解する。③建築物を構築するための計画を練る。建築物の構築方法を学びます。各種工法の特徴を知り、適切な工法を選ぶための合理的な判断が出来るように考えて頂く効果を期待しています。</p>	<p>偶数・奇数の学籍番号に別けて隔週の60分授業を行った。 各項目に関する授業時間が取れず、各自の教科書や資料を読んだの課題学習を行った。 建築施工は現場の詳細な内容の説明が必要であり説明を行うための時間が不足してしまつた。 またその内容をわかりやすく説明するためにビデオなども使用したが部分的な理解となつてしまつたと感じる。 初めての対面授業での学生との理解度の共有方法にも工夫が必要だつたと感じる。 定期試験についてレポートでなく回答の正解・不正解がわかりやすいものにして欲しいと学生から希望があり対応したが、反対に内容が難しくなつてしまつた。</p>	<p>授業評価4.1 回収率54.4% 科目GPA2.19 本年度は対面授業で進めることができるため、各項目について詳細な説明を行いながら進めていきたい。 教科書が学生の学習レベルと合わなかつた為、本年度は教科書の変更を行い進めることとする。 施工は教科書のみではわかないことも多く、ビデオの視聴も取り入れながらわかりやすい説明に心がけたい。</p>
A202017 建築施工学	<p>授業目標は各種工法の特徴について、理解力をつけてもらいます。また、各種工法の特徴を知り、適切な工法を選ぶための合理的な判断ができるようになることが目標となります。さらに、まとめの整理、分析、考察ができるようにしてもらいます。</p>	<p>偶数・奇数の学籍番号に別けて隔週の60分授業を行った。 各項目に関する授業時間が取れず、各自の教科書や資料を読んだの課題学習を行った。 建築施工は現場の詳細な内容の説明が必要であり説明を行うための時間が不足してしまつた。 またその内容をわかりやすく説明するためにビデオなども使用したが部分的な理解となつてしまつたと感じる。 初めての対面授業での学生との理解度の共有方法にも工夫が必要だつたと感じる。 定期試験についてレポートでなく回答の正解・不正解がわかりやすいものにして欲しいと学生から希望があり対応したが、反対に内容が難しくなつてしまつた。</p>	<p>授業評価3.9 回収率30.4% 科目GPA2.93 本年度は対面授業で進めることができるため、各項目について詳細な説明を行いながら進めていきたい。 教科書が学生の学習レベルと合わなかつた為、本年度は教科書の変更を行い進めることとする。 施工は教科書のみではわかないことも多く、ビデオの視聴も取り入れながらわかりやすい説明に心がけたい。</p>
A202019 建築設備	<p>目標は建築設備に関する基礎的な知識を修得し、簡単な設備計画が行える。そして空調、給排水、防災、電気の各設備について講述し、演習課題を通じてより実践的な技術を習得します</p>	<p>初めての対面授業での学生との理解度の共有方法にも工夫が必要だつたと感じる。 偶数・奇数の学籍番号に別けて隔週の60分授業を行った。 各項目に関する授業時間が取れず、各自の教科書や資料を読んだの課題学習を行った。 時間不足を感じ、住宅での建築設備に絞つた説明と学びとした。 そのために、中高層の建築物の建築設備の知識不足を補つことが難しかった。 定期試験についてレポートでなく回答の正解・不正解がわかりやすいものにして欲しいと学生から希望があり対応したが、反対に内容が難しくなつてしまつた。</p>	<p>授業評価3.7 回収率31.0% 科目GPA2.55 本年度は住宅と中高層の建築物を別け それぞれの説明を各項目に従つて行った。 教科書も昨年よりレベルを上げ、一級建築士試験も意識して授業を実施することとした。 空調については近年 多手法になっていることから時間をかけた授業を行った。</p>
A202036 卒業研究 II	<p>目標は授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることとした。学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業とした。卒業研究 I で行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p>	<p>授業人数も少なく対面で毎週の授業を基本に行い、途中 半分に分けた対面授業とした。 自ら課題を考え、問題意識を持って進められる学生と、自身で進めることができず問題意識を持つことが難しい学生の差が出てしまつた。 中にはコンペに出す作品をあわせて挑戦できる学生・学外の論文発表に挑戦できる学生の手助けができたことは良かった。</p>	<p>授業評価 無 回収率00.0% 科目GPA2.71 昨年度は課題や取り組み問題点が見つからない学生がいたため、夏休みから問いかけを行い、後期授業での取り組みが迅速に進められるようにした。 ディスカッションの量も増やし、自ら問題点発見ができるように、また仲間の問題も同じように受け止め取り組めるようにしていきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202003 基礎製図Ⅱ	<p>目標 建築の初学者が住宅や小店舗といった身近な事例の計画・設計を通して、建築を設計・製図することの楽しさを知り興味を深めることを目的としています。これにより2年次から本格化する建築設計や、さらには建築について学ぶこと自体へスムーズに移行できることを企図しています。</p> <p>教育効果 建築図面の記号や表記方法を理解できる。基本的な建築図面の読み書きができる。基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。</p>	<p>授業時間を短縮し、学籍番号の奇数、偶数に分割して、対面と遠隔を隔週で実施した。教員4名により2グループに分かれ、「住宅の模型」「住宅の設計」「カフェ空間の設計」の3課題を行った。</p> <p>隔週になったことで、少人数での対面授業が行われ、より丁寧な指導ができた。</p>	<p>授業評価4.2(4.4, 4.0, 4.1, 4.2, 4.3) 回収率(83.0%) 科目GPA2.54</p> <p>授業時間の短縮と、隔週の対面授業の影響で、学内での作業時間が減り、完成度が低い作品がみられた。製作にかかる時間を如何に確保するかが課題である。</p>
A202004 建築ものづくり広場	<p>目標 建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身に付け、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。</p> <p>教育効果 自らものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。</p>	<p>授業時間を短縮し、学籍番号の奇数、偶数に分割して、対面と遠隔を隔週で実施した。教員3名により3グループに分かれ、「木製ベンチ立て」「ダンボール製ハンガー」「スケッチ」の3課題を行った。</p> <p>「ダンボール製ハンガー」では、身体寸法を把握するとともに、機能性、強度、デザインがそれぞれ成立するつくりや形態を考え、学生同士でディスカッションをし、トライアル・アンド・エラーを繰り返しながら、「デザイン」の意味を深めることができた。</p>	<p>授業評価4.3(4.4, 4.1, 4.2, 4.3, 4.2) 回収率(84.3%) 科目GPA2.41</p> <p>授業時間の短縮と、隔週の対面授業の影響で、学内での作業時間が減り、完成度が低い作品がみられた。製作にかかる時間を如何に確保するかが課題である。</p>
A202012 建築設計演習Ⅱ	<p>目標 「周辺環境」「住まい」「コミュニティ」の関係について考察し、建築設計に反映できることを目的とします。また、構想した空間を相手に伝えるための図面表現力も養います。</p> <p>教育効果 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。設計した計画を図面で表現することができる。</p>	<p>授業時間を短縮し、学籍番号の奇数、偶数に分割して、対面と遠隔を隔週で実施した。授業は、敷地調査、事例調査、エスキース、製図と模型製作という内容で、教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力にあわせた指導を心がけた。エスキースでは、隔週になったことで、少人数での対面授業が行われ、より丁寧な指導ができた。</p>	<p>授業評価4.3(4.4, 4.0, 4.2, 4.3, 4.3) 回収率(50.6%) 科目GPA2.04</p> <p>授業時間の短縮と、隔週の対面授業の影響で、学内での作業時間が減り、完成度が低い作品がみられた。製作にかかる時間を如何に確保するかが課題である。</p>
A202035 卒業研究Ⅱ	<p>目標 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p> <p>教育効果 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>オンデマンドによる遠隔と対面で実施した。遠隔授業では、それぞれのテーマに対して課題を設定し研究を深めていった。対面授業では、遠隔で取り組んだ課題を発表してもらい、ディスカッションしながら、作品・成果報告書を作成した。</p>	<p>遠隔時の取り組みや進捗状況に格差が生じた。遠隔では、リアルタイムでの授業が必要であり改善していきたい。</p> <p>また、コミュニケーションが得意な学生もいるため、個別指導となり受け身に回る傾向が見られる。学生自らが主体的に考え、学生同士でもディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>
GA20208 建築学特別研究B 集中	<p>目標 建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。</p> <p>教育効果 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>リアルタイムによる遠隔と対面で実施した。修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行い、中間成果報告書を作成した。</p>	<p>日本語が得意な学生もいるため、研究内容が深まらない傾向が見られる。日本語能力を向上し、ディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A192014 福祉住環境学	<p>高齢者、障害者の住環境整備を福祉、医療、建築の3つの側面から修得するとともに、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。</p> <p>現在、高齢者・障害者のみならず、すべての生活者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、そのような生活環境整備に係わるには、医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について習得することが期待されます。</p>	<p>履修生31名であった。</p> <p>履修者に対して、対面授業7回と遠隔授業8回と定期試験(レポート試験)を実施した。課題及び定期試験はすべてUNIPA提出とした。半が遠隔授業のため、対面授業時に2回分の講義について重要事項を説明する。事前に資料を配布し、予習課題として授業で行う内容について各自で調べるなどの対応をとった。履修生は、余裕をもって授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ち授業を受講することができた。また、授業時間が短縮されたため、演習問題の○×問題は、授業後に回答をUNIPAで提示し、授業時に解説を行う等とし、対応した。</p> <p>資格取得を希望する学生には別途対応した。</p>	<p>授業評価4.50(4.6、4.3、4.5、4.4、4.7) 回収率48.4% 科目GPA2.22(F以外2.22)</p> <p>授業評価回収率は48%と高くなく、授業評価が必ずしも学生の評価を反映していない可能性も考えるが、評価は高いようである。これは、医療・福祉・建築の幅広い知識と福祉用具や諸施策情報などに多くの事柄について学習することが大きいと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、様々な知識をむすびつけるよう工夫したい。</p>
A192026 宅地建物管理	<p>土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限(特に民法、建築基準法)を理解し、ものづくり及び管理に必要な工程管理・品質管理等について理解することができます。</p> <p>建築学の目的や内容を理解するための手助けとして、土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限(民法、借地借家法、建築基準法、建築設備等)、それに関わる工程管理・品質管理について習得することが期待されます。</p>	<p>履修生が53名であり、3年次の選択科目の履修学生数としては多い。</p> <p>履修者に対して、対面授業7回と遠隔授業8回と定期試験(レポート試験)を実施した。課題及び定期試験はすべてUNIPA提出とした。半が遠隔授業のため、対面授業時に2回分の講義について重要事項を説明し、事前に資料を配布した。対面授業時には、白板に板書・説明を書き加えるなど、理解が進むように工夫した。特に民法の考え方などについての絵解きの説明は、履修生からの評判がよかった。</p>	<p>授業評価4.80(4.9、4.7、4.8、4.8、4.9) 回収率32.1% 科目GPA2.56(F以外2.56)</p> <p>授業評価回収率は32%と高くはない。宅地建物管理の授業内容は、これまで学修した建築基準法、都市計画法などの法律も扱うため、他授業で関連づける説明をするなどの対応したい。</p>
A192034 卒業研究Ⅱ	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの講読などから得られる知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p>	<p>履修者数7名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であった。遠隔授業もあったが、履修生は積極的に取り組んでくれた。</p> <p>履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。</p>	<p>授業評価 — 科目GPA2.17(F以外2.17)</p> <p>研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>
GA20213 設計演習B	<p>各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。</p> <p>建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各領域の設計テーマについての演習を通じて、設計そのものの行為と設計に必要な知識や技能を獲得・向上させる行為とを有機的に接続しながら、実践的な設計能力の向上を図る。</p>	<p>履修者数4名であった。授業内容は5つのテーマの設計提案について考える演習とした。遠隔授業もあったが、履修生は積極的に取り組んでくれた。定期試験レポートは5つのテーマから1つを選択し、演習内課題をさらに詰める内容とした。履修生によりテーマが異なるため、各自のテーマに沿った指導を行った。また、テーマの異なる提案内容を見ることが履修生の勉強にもなるため全履修生で共有するように心がけた。</p>	<p>授業評価 — 科目GPA2.75(F以外2.75)</p> <p>授業評価の結果がないが、設計提案が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202003基礎製図Ⅱ	<p>建築の初学者が住宅や小店舗といった身近な事例の計画・設計を通して、建築を設計・製図することの楽しさを知り興味を深めることを目的としている。これにより2年次から本格化する建築設計や、さらには建築について学ぶこと自体へスムーズに移行できることを企図している。よって、以下のような教育効果をえられるものとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築図面の記号や表記方法を理解できる。 ・基本的な建築図面の読み書きができる。 ・基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。 	<p>基礎製図Ⅱの発展的授業として、復習も兼ねた課題の実施ができた。身近な空間のスケールを把握し図面化する課題と、敷地の周辺環境も意識した建築計画をする課題の2つの課題を通して、授業目標に加え、スケール感、図面の描画力、プレゼンテーション能力の育成も行なった。</p>	<p>授業評価4.20(4.4 4.0 4.1 4.2 4.3) 回収率83.0% 科目GPA2.54 学生により、課題の進行の速さが異なり、一部完成度が足りない学生もみられたため、ひとりひとりの学生の進行状況や理解度を把握し、必要に応じて時間外に対応できるようにする。</p>
A202014インテリア設計Ⅱ	<p>商空間における必要な機能とエレメントについて理解できる。 既存の建物の条件を考慮して商空間のインテリア設計を考えることができる。 インテリアコーディネートした様々なエレメントを図面とプレゼンテーションボードにより表現することができる。</p>	<p>身近な空間の提案をすることで、その周辺環境の把握や、実体験に関係した需要を検討することができた。商空間に求められる機能を理解し、適切なエレメントの選定ができた。エレメントを図面とプレゼンテーションボードにより表現することができた。</p>	<p>授業評価4.70(5.0 4.3 4.6 4.7 4.9) 回収率30.4% 科目GPA2.39 学生により、図面の描画技術やプレゼンテーション能力が異なり、一部完成度が足りない学生もみられたため、ひとりひとりの学生の進行状況や理解度を把握し、必要に応じて時間外に対応できるようにする。</p>
A202021 専門ゼミナールⅣ	<p>建築に関わる様々な事実や事象を自らの問題意識をもって理解し、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけ、意見や批判を受け止め、考えつつ探求能力を身につけられるようにする。</p>	<p>これまでに学習してきた建築学科の専門教育を履修するための自立的学習技法を応用し、建築への問題関心をさらに深める学習課題を自ら設定し、解決する能力を養う。関心や興味が卒業研究へと反映され、建築のさまざまな分野の中から、自らの能力や適性にあった建築職能の在り方を見定めるよう支援した。</p>	<p>授業評価4.20(4.2 4.1 4.1 4.1 4.3) 回収率29.6% 科目GPA2.08 建築の中でもインテリア関連企業に注目し、あらかじめ情報を提供した上で、調査対象は学生自身に決めてもらうようにした。そのため、調査対象が学生ごとで異なり、個別に把握するようになった。卒業研究に展開しやすいように、誘導したが、課題を提出することが目的になっている学生もみられたため、より個別な対応が必要と考える。</p>
A202034 卒業研究Ⅱ	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。卒業研究を通して、建築分野での疑問を調査や分析を通して、自ら理解を深め、考察することができるようになる。設計を進めるものは、学生が興味・関心のある地域や用途について、調査・分析を行い、社会に貢献できる建築・インテリア設計ができるようになる。</p>	<p>学生自ら問題意識を持ち、自主的に責任をもって検討・実施できるように誘導した。研究室全体でそれぞれが進めている研究テーマから得られた情報を共有し、より広い興味と知識を得られるようにした。</p>	<p>授業評価なし 科目GPA3.17 研究テーマをまとめることが困難な学生に対して、個別に指導する。</p>
GA20201 インテリア実務論	<p>本講義の目標は以下の3点です。1) インテリア実務にける企画から設計までの要点を理解すること。2) インテリア空間の検討と決定までの知識を習得すること。3) 各種施設等の計画および意匠への反映手法・技法の実務を身に付けることを達成目標とした。</p>	<p>インテリアに対する社会的要求の高度化・多様化に対し、機能性・安全性・快適性等を備えた質の高いインテリアを日頃から考察し、住宅・オフィス、商業施設等の領域において、インテリアの計画・設計から工事監理までを行う専門的知識・教養を身に付けるように誘導した。</p>	<p>授業評価なし 科目GPA3.00 受講者が体感していると思われる身近な空間を事例に、よりリアルに学習できるようにする。</p>
GA20207 建築学特別研究B 集中	<p>研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。</p>	<p>研究テーマの関連文献や既往研究の調査を中心に実施した。調査を通して、研究の位置付けや今後すすめるアンケート調査の調査項目の抽出も行なうことができた。</p>	<p>授業評価なし 科目GPA3.00 主体的に取り組めていないため、学生がスケジュール管理をし、すすめていけるように誘導するようにする。日本語の文献を理解し、読み終えるのに時間を要するため、授業時間外の対応もする。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
インテリアデザインⅡ	様々な事例を通して、商空間における必要な機能やインテリアデザインの方法を理解することができる。 商空間における人の寸法と空間の広さについて理解することができる。 用途別商空間のインテリアデザインについて理解することができる。	1コマ60分授業となっており、受講生の半数が登校・半数が自宅学習、それを毎週交互に入れ替えながら運用した。 コロナ禍で100%の登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	授業評価4.1 (4.1、4.1、4.2、4.2、4.2) 講師は毎週登校授業だけでなく自宅学習課題も配信するので通常時の2倍くらい大変だったが、学生からすると対面授業が90分→60分のため2/3になっており、かつ、登校対面授業は隔週になるため1/2となり、登校対面授業の時間は通常時の1/3ほどとなったので、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。ビジュアルを増やすなどしていきたい。
建築CGⅡ	建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後こうした傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。	1コマ60分授業となっており、受講生の半数が登校・半数が自宅学習、それを毎週交互に入れ替えながら運用した。 さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、毎週分の視覚的に把握しやすい動画の資料を用意してUNIPA配信した。コロナ禍で100%の登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、動画配信は最良だったと考えられるが、睡眠時間が無く以後はできないため、静止画説明の資料作成が必要と考えられる。	授業評価3.7 (4.0、3.4、3.7、3.7、3.6) 講師は毎週登校授業だけでなく自宅学習課題も配信するので通常時の2倍くらい大変だったが、学生からすると対面授業が90分→60分のため2/3になっており、かつ、登校対面授業は隔週になるため1/2となり、登校対面授業の時間は通常時の1/3ほどとなったので、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。ビジュアルを増やすなどしていきたい。
建築CADⅡ	建築CAD・CGソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築CAD・CGソフトによる2次元および3次元作図ができる。 建築CAD・CGソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。	1コマ60分授業となっており、受講生の半数が登校・半数が自宅学習、それを毎週交互に入れ替えながら運用した。 コロナ禍で100%の登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	授業評価3.7 (3.8、3.6、3.7、3.4、3.7) 講師は毎週登校授業だけでなく自宅学習課題も配信するので通常時の2倍くらい大変だったが、学生からすると対面授業が90分→60分のため2/3になっており、かつ、登校対面授業は隔週になるため1/2となり、登校対面授業の時間は通常時の1/3ほどとなったので、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。ビジュアルを増やすなどしていきたい。
卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。 1コマ60分授業となっており、登校対面授業と自宅学習を交互に運用した。 コロナ禍で100%の登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	各過程をチェックし進行具合を把握するために登校は一つの起点として重要と考えられる。 また、達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、少人数による対応など考えていきたい。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A202002 住宅プランニング	住宅建築(主に戸建て住宅)の計画に関する専門用語を理解することができる。 住宅建築のプランニングがどのようになされているか理解することができる。 住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	対面・遠隔を交互に繰り返す授業形態にあわせて、教科書読解とプランニング課題を並走させた。対面・遠隔それぞれの特性を活かしながら授業展開できたものと考え。ただ、やはり遠隔授業では、ユニバを介した相互コミュニケーションが密にとれる学生と、そうでない学生の格差が広がったことは否めない。対面授業にもどることで、遠隔でのデメリットはとりえず脇に置けるとしても、通常授業時よりも密にやりとりできたケースを、今度どう活かして行くかが課題と考える。	授業評価4.2(4.3、4.2、4.3、4.2、4.2) 今回はイレギュラーな授業運営となったため、今後に向けた授業改善策は立てづらいものの、授業資料の充実はどのような局面においても、学生の理解の助けになるものなので、遠隔時に工夫した授業資料のブラッシュアップを続けたい。
A202032 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	受講した学生のタイプにもよるが、本年度は特に遠隔、メール等でのやりとりに不自由する場面が多々あった。前期、卒業研究Ⅰでの成果が薄かったことから、まるまる半期分、学習成果が足りていない結果となったのは否めない。反省しきり。	課題内容をより細分化するなどして、コツコツ成果を積み上げて行けるようにする。
L202034 キャリアデザインⅥ A	就職活動に必要な企業研究の方法を修得し、志望企業リストを立案できるようにします。エントリーシート、履歴書作成に必要な自己PRを作成します。面接試験に必要な技術を身につけます。	受講者を2グループに分けての遠隔・対面交互実施とあって、やはり遠隔時の学習取り組みに対面時よりも格差が生じてしまったのは反省点である。エントリーシート等の作成にあたっては、当該書類において求められる内容を詰める以前に、作文能力の面で種々のハードルがあり、指導がいきわたらなかった。	次年度以降は新カリキュラムに移行し、かつ、科目担当からもはずれるため、本科目で得た反省点は、別の担当科目へと敷衍・反映させていく。